

地域医療を学ぶ育成フィールドづくりを目指して

留萌市医療人材交流拠点形成事業



■地域からの医療人育成

地域医療を支える医療人材の不足と偏在が、地域医療崩壊の大きな要因と考えられています。一方、道内の医育大学で研修を希望する医師の卵が減少する中、地域ぐるみでの魅力のある医療環境づくりや個性のある地域研修づくりが求められています。

留萌市では、るもいコホートピア構想を進めながら、医育大学と

■医育大学の実習フィールドとしての展開

昨年、札幌医科大学を中心とした道内5大学（室蘭工業大学、小樽商科大学、北海道医療大学、千歳科学技術大学）の大学院生が、地域医療実習に訪れ、留萌が進める予防医学と地域医療、介護事業所との医療連携の現状、取り組みなどを学びました。今年は、さらに札幌医科大学の地域医療臨床実習地に選ばれ、留萌地域の取り組みを教材に、将来、地域医療に貢献できる医療人材育成を目指して、地域密着型実習や報告会などが予定されています。

これらの取り組みを通して、今



後引き続き、留萌が地域医療を学ぶための洗練された地域密着型の医療教育の場所となつて、医育大学との間で人材交流や教育成果を地域で実践できる関係を築いていくものと期待しています。

■地域に根ざした病院の「個性」

大学を卒業した医師が、自由に自分の好きな病院を選ぶ研修医制度に変わり、医師確保のためには、魅力を感じる病院としての「個性」が重要な時代となりました。

若い研修医に人気のプライマリケアとは、「家庭医」「総合医」と呼ばれる、広く総合的に対応できる医師像です。

■るもいコホートピア構想による地域モデルの発信

また、家庭医療を目指す研修医にとつて、臨床医学研究に裏付けられた根拠（エビデンス）に基づいて、地域医療を実践することが重要であり、地域住民を対象にした健康調査・研究で得られたデータをもとに、地域に最適な医療を研究し、学術的な論文発表や、地域住民への予防講話の機会を通じて、若い医師がキャリア形成できるように支援しています。

これらの取り組みは、るもいコホートピア構想を進める地域ならではの「個性的」な取り組みでもあり、地域特有の疾病要因の特定



や、早期発見につながる方策など、地域住民の健康づくりを共に展開しながら、個性的な研修プログラムとして発信したいと考えています。



2月に開設した東雲診療所

「最先端の医学を学べる環境に感謝」

留萌市立病院総合内科 白井 丙午郎

私は、現在総合内科医として留萌市立病院に勤務させて頂いています。臨床の最前線での豊富な経験だけでなく、留萌市と連携した疫学調査研究の成果を全国の研究者が集まる学会で発表する機会に恵まれるなど、最先端の医学を学べる環境に感謝しつつ、日々頑張っています。

地域医療再生の鍵は何か。共に考えよう！

参加無料

地域医療再生セミナー

「地域医療再生と異分野連携を考える」

医療、介護を含む地域で安心した暮らしを支える総合的な取り組みや、地域医療再生に向けて、異分野が連携した目指すべき地域社会について、皆さんとともに考えます。

●日時 **7月10日(日) 13:00～15:00**

●会場 留萌市中央公民館 講堂

●基調講演

「社会保障改革案と地域医療再生」

北海道病院協会 理事長 とくだ さだひさ 徳田 禎久 氏

(社会医療法人禎心会 理事長)

「新医師臨床研修制度と北海道の現状」

厚生労働省北海道厚生局健康福祉部医事課 いばやし ゆきひろ 臨床研修審査専門官 伊林 至洋 氏

「地域医療支援を目指した札幌医科大学と留萌市の連携教育の展望」

北海道公立大学法人札幌医科大学 そうま ひとし 医療人育成センター 教授 相馬 仁 氏

お問い合わせ先 市・コホートピア推進室 ☎43・8121 留萌市立病院 ☎49・1011